

中国式道教資本主義と自由至上主義的財富観

道教と自由至上主義の経済思想比較を通じた現代資本主義の理解

発表者：[氏名] 所属：[

所属 / 機関]

日付：2025年6月
22日



研究背景および目的

- 中国の経済的価値観において道教思想が持つ役割

既存の儒教・仏教・キリスト教と比較して道教が持つ資本主義的特徴、道教資本主義と自由至上主義 / 新古典派経済学の実質

- 的差異と示唆点の分析、経済倫理における道教的財富観が現代資本主義に与える含意

- 循環と自由の関係を通して見た現代の経済危機と代案の模索



道教資本主義の定義と特性

- 資本主義に最も近い中国の伝統思想

現代中国で最も人気のある宗教であり、物質を最優先の価値とする現代中国は、儒教国家というより道教国家に近い姿を示す



財富、物質追求、貯蓄、実用性の強調

道教は中国人の理財（りざい）に明るい属性と符合し、現代の道教寺院の神は財物を司る神明で満ちている



政治的・歴史的影響

毛沢東は道教を相対的に優遇し、鄧小平の改革開放は道教の柔軟さと関連し、現代中国の経済体制は道教資本主義的要素を内包している



現実的な財富追求と適応力

勸善書（勸善書）と功過格（功過格）を通じた善行と未来の財富の連結、実用的態度と現実適応の強調



道教経済思想の中核原理

- 経済サイクル：生産－流通－分配－貯蓄の循環

道教は特に「貯蓄」と「循環」を経済発展の中核とみなし、「水の哲学」のような貯蓄思想を強調

- 小国寡民（小國寡民）－最小国家論

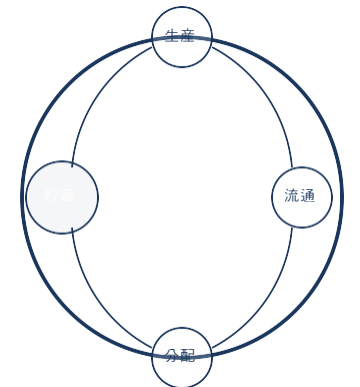
効用本位の最小限の政府を理想的国家とみなし、自由至上主義的経済観と類似した国家観

道（道）の前の絶対平等

- 実利中心の価値理論
莊子の天生平等説（天生平等説）は、法の前の平等、市場の前の平等のような自由至上主義的絶対平等観と連結する
新古典派の限界効用理論と類似した実利尊重、効用重視の思想により資源の効率的配分を志向

- 自然との調和、循環の強調

無為自然（無爲自然）の原則が、経済活動においては貯蓄と循環を通じた自然な経済秩序として表現される



自由至上主義経済観との比較概要

- 自由至上主義 / 新古典派経済学の核心

私有財産の尊重、最小政府、市場自律、法 / 市場の前の平等、個人の自由と効用価値中心



道教資本主義との共通点

貯蓄と自由の尊重、経済的効率性、限界効用均等の法則の強調、最小

- 国家の志向

根本的な相違点

- 道教：「自然の循環」が最優先の価値、自由至上主義：「人間の自由と利益」が最優先の価値

現代的意味における緊張関係

自
義

道教資本主義

「循環優先、自由追求」



現代

自由至上主義

「自由優先、循環追求」



歴史的影響 – 東西思想の交流

- 道教の西洋への伝来

マテオ・リッチによって間接的に初めてヨーロッパへ紹介され、宋明理学を通じた影響が拡散

- 経済理論に与えた影響

アダム・スミスの「見えざる手」（無為自然）、新古典派の限界効用論、自由至上主義の経済倫理

カルヴァン主義と道教的財富観

- カルヴァンの救済予定説・高利貸業の容認は道教の勧善説と財富観の影響であり、「神の恩寵としての財物」という観点が類似

思想的系譜

道教の1585-1610小国寡民思想 → 孔子と孟子の1564-1604自由放任的経済思想 → カルヴァンとアダム・スミスの1723-1790

国富論、自由放任主義

●
マテオ・リッチの中国
での活動 東西思想交
流の始まり

●
カルヴァンの活動
救済予定説、高利貸業の
容認

●
アダム・スミ
ス 国富論と見えざ
る手

1870年代-

●
新古典派経済学
限界効用論の発
達

「国富論はその題名からして道教の富国（富國）強兵策から来ており、自由放任は道教の無為之治を翻訳した言葉に由来する。」

道教資本主義 vs 自由至上主義 比較表

比較項目	道教資本主義	自由至上主義 / 新古典派経済学
理論	Xは一X、現実否定 未来対備	自由尊重、個人の選択の自律性
重点経済活動	貯蓄、財富観、財物崇拜、棄国主義	私有財産の増殖、市場取引
国家観	小国寡民、太平の実現	最小政府、警察国家
社会観	人為の排撃、自然的秩序の強調	政府干渉の排除、自己調整市場
平等観	道の前の平等、天生平等論	法 / 市場の前の平等
価値理論	実利崇拜、上善若水の適応	効用価値、適応を通じた効率
代表的思想家	老子、莊子	カルヴァン、アダム・スミス、ハイエク、フリードマン
長所	経済動機の誘発、循環の重視	資源の効率的分配
問題点	社会制度の否定による虚無主義、現実逃避	過度な自由尊重による共同体の破壊、賭博 / カジノ資本主義化
根本的差異	循環 / 自由のうち循環が優位	循環 / 自由のうち自由が優位



経済活動の観点から見た両思想の相違点

道教資本主義

- 貯蓄と循環の強調
無（無）、止（止）を強調する「還りの宗教」
- 自然の秩序の重視
水の哲学、「小国寡民」思想を通じた経済資源の蓄積
- 経済サイクルにおける位置
生産－流通－分配－貯蓄のうち貯蓄に集中、循環を誘導
- 中核的価値：循環優位
人間の自由より自然の循環的秩序を優先する

自由至上主義

- 市場自律と個人の自由の強調
個人の選択と利益極大化のための市場機能
- 人間中心の利益優先
限界効用極大化を通じた資源の効率的分配
- 経済サイクルにおける位置
生産－流通－分配－貯蓄のうち分配と流通に集中
- 中核的価値：自由優位
自然的循環より人間の自律性と選択を優先する



現代的意味と問題点

道教資本主義

強み

- 実用性と現実適応力
- 自然の循環原理の強調
- 経済動機の誘発と貯蓄の重視

問題点

- 社会制度の否定と虚無主義に流れる危険
- 制度が不備なとき現実逃避思想へ変質
- 賭博資本主義へ墮落する可能性

自由至上主義

強み

- 市場の自律的効率性
- 個人の自由と選択の尊重
- 資源の効率的分配メカニズム

問題点

- 過度な自由尊重による共同体の破壊
- 人間の利益のみを追求し生態系危機を招く
- 自由の過剰により賭博資本主義へ変質

現代資本主義の危機の分析

- カルヴァン主義の財富観が「神の死」（ニーチェ）、「人間の死」（共産主義の失敗）以後、賭博資本主義へ変質
- 貨幣が循環性を喪失し自己目的化することで、社会的信頼と機能を喪失
- 自然の循環（道教）と人間の自由（自由至上主義）の間の均衡喪失が現代の経済危機の根本原因

賭博資本主義現象の分析

- 財富観の変化：「神の死」以後
プロテスタンティズムの禁欲的労働の強調から、誇示的消費と仮想的満足追求へと変化
- 貨幣の意味の変化
「救済」の証から他者の欲望の証へ、現在は循環性を喪失したまま、それ自体が宗教化
- 現代資本主義の理想の喪失
共産主義の失敗とともに人類の理想への信頼を喪失し、他者の欲望の模倣へ転落
- 賭博資本主義の特性
投機と短期的利益の重視、循環性の不在、「貨幣のための貨幣」の形態へ進化

宗教的資本主義

財貨を失っても資本主義を恨まない宗



信現象が発生



解決案および示唆点

- 循環的調和（道教）と自律的責任（自由至上主義）の回復

🔄 道教資本主義

自然の循環原理の尊重と過不足の警戒、資本の流れを阻害する過剰蓄積の防止

⚖️ 自由至上主義

個人の自由とともに責任意識の回復、良心に基づく自律的秩序の構築

- 賭博資本主義克服のための価値の再定立

財富と財物観に対する再省察と「循環」の回復、財物の独占より効率的な「流れ」を重視する経済システムの構築

- 社会的・倫理的フレームの強化

道教の上善若水（上善若水）原理と自由至上主義の最小政府を結合した均衡モデル – 流れを妨げないが倫理的基盤は強化する

未来経済への示唆点

人為的制度と自然的秩序の均衡、市場自律性と社会的循環が調和した新たな経済モデル構築の可能性



結論および今後の課題

主要な結論

- 道教資本主義と自由至上主義の本質的差異
道教は「自然の循環」を優先し、自由至上主義は「人間の自由」を優先するという根本的な価値の差異を持つ
- 現代資本主義の危機と道教的洞察
自由のみを強調し循環を無視した現代資本主義の賭博的変質と危機

今後の課題

- 経済理論と政策における循環と自律の均衡の模索
道教の循環原理と自由至上主義の自律性原則を統合した新たな経済パラダイムの研究
- 現代的適用方案の研究
過不足の警戒（道教）と自律に対する責任の承認（自由至上主義）を結合した経済倫理の発展

